

6-1 西南日本内陸部の地震活動（1990年1月～6月）

Seismic Activity in the Inner Zone of Southwest Japan (January – June, 1990)

京都大学防災研究所 地震予知研究センター

Research Center for Earthquake Prediction,
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

当大学の地震予知関係研究組織の統合に伴い、今回から西南日本内陸部の定常的地震活動を一括して報告することとする。

第1図は1990年1月から6月までの期間中の西南日本内陸部の地震活動状況を示す。全体的に見て、中部地方北西部特に飛騨山脈周辺と、近畿地方中・北部特に京都西部で活動が活発であることが明らかである。

以下に、中部地方北西部、近畿地方中・北部、中国地方東部の各地域毎の地震活動状況をやや詳細に述べる。

1. 中部地方北西部の地震活動

第2図および第3図は、1990年1月より6月までの中部地方北西部の地震活動状況を示したものである。この期間中の主な活動（図中に番号を付したものは次の通りである。

第2図はこのうち、飛騨地方北部及び、富山湾及び能登半島周辺を含む北陸地方北部の活動状況である。(1)は8月1日富山湾内に起ったM3.3の地震、(2)1月15日跡津川断層と御母衣断層の交点付近でM3.0の地震、(6)4月7日白山直下でM3.0の地震、(7)跡津川断層西端付近で4月27日M3.0および6月14日M3.2の地震が発生した。(3)、(4)、(5)は前報¹⁾に報告した、1月24日から始まった乗鞍岳南西、焼岳付近、および鳥帽子岳付近の飛騨山脈下の群発地震活動であって、詳細は別項²⁾に報告する。

第3図は北陸地方南部の活動状況を示す。基本的には従来状況とあまり変わらず、この期間中特に目立った活動はなかった。

2. 近畿地方中・北部の地震活動

第4図は1990年1月から6月までの近畿地方中・北部の地震活動状況を示したものである。(1)は前報³⁾に報告した1月11日滋賀県南部に発生したM4.9の地震であり、軽微な被害を生じた。前震は観測されず、余震活動も低調で、11日のM3.0及び12日のM2.4を含め、23個の震源が決定された。この地震以後、この期間中には目立った地震活動はなかった。

3. 中国地方東部の地震活動

第5図は、1990年1月から6月までの中国地方東部の地震活動状況を示したものであるが、この期間中の顕著な活動は次の通りである。

(1)は鳥取－島根県境付近で1989年10月27日M5.3および11月2日M5.4を含む顕著な群発地震活動⁴⁾が発生した場所であって、今回は3月1日M3.6及び4月1日にM4.3の地震が発生した。これらは昨年から継続している余震活動と考えられる。(2)4月5日M3.9及び6月25日M3.1を含む岡山県柵原付近の活動、(3)は6月10日M3.6を最大とする山崎断層付近の活動であって、やや活発化した。(4)6月2日M3.0を最大とする兵庫県香住付近の活動であるが、この西方の鹿野、吉岡断層周辺の活動もやや活発化したように思われる。

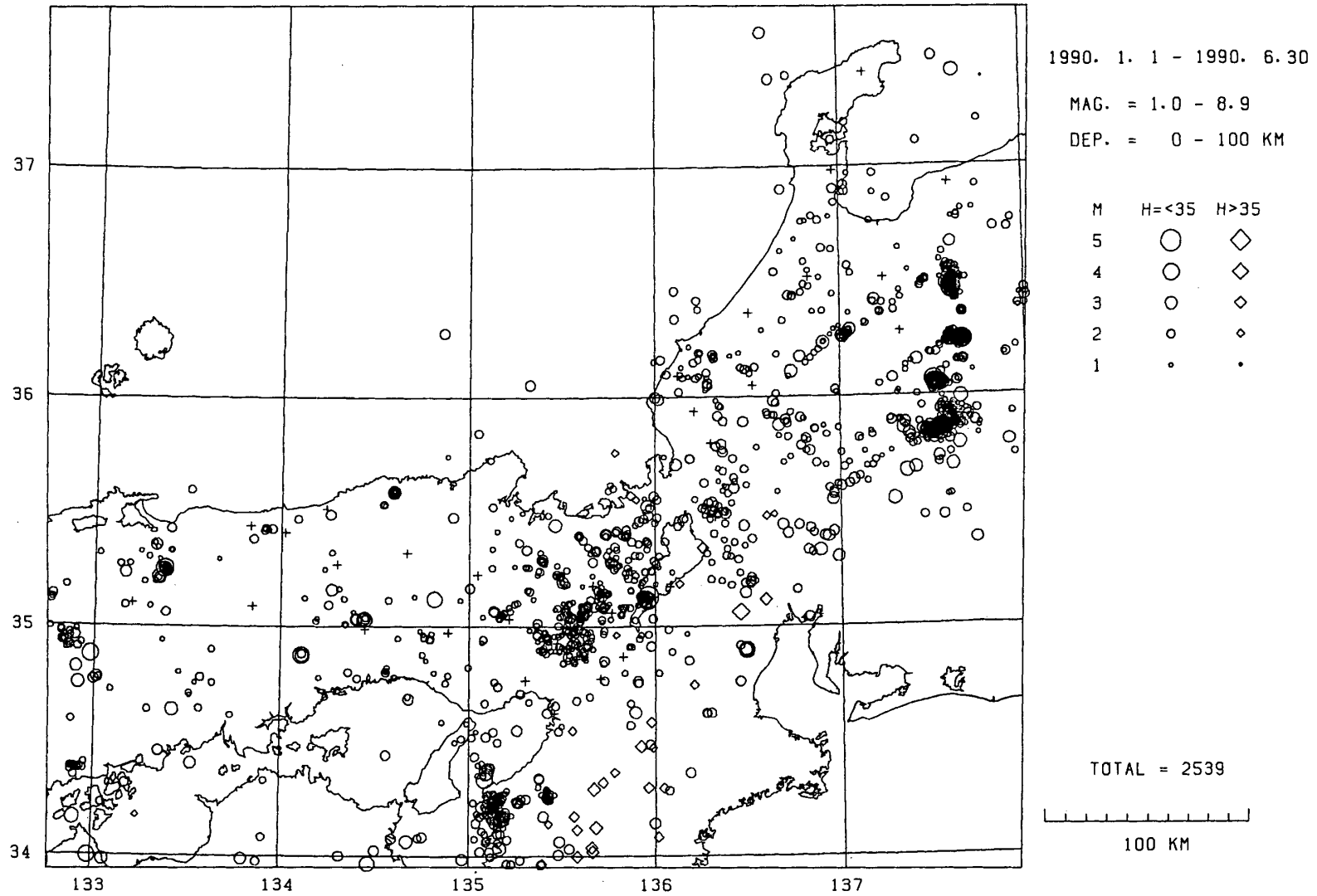
4. メカニズム

第6図に、この期間中に西南日本内陸部に発生した主要な地震 ($M \geq 3.5$) のメカニズムを示した。(ただし飛騨山脈下の地震については既に報告済¹⁾であるので省略した。)

近畿地方中・北部滋賀県南部の地震 (1990年1月11日 $M=4.9$) のメカニズムは既に報告されている通り³⁾ 逆断層型を示すが、中国地方東部の(2)、(3)の地震は何れも横ずれ型であって、P軸 (主圧力軸) は従来から云われているように、ほぼ東西方向である。

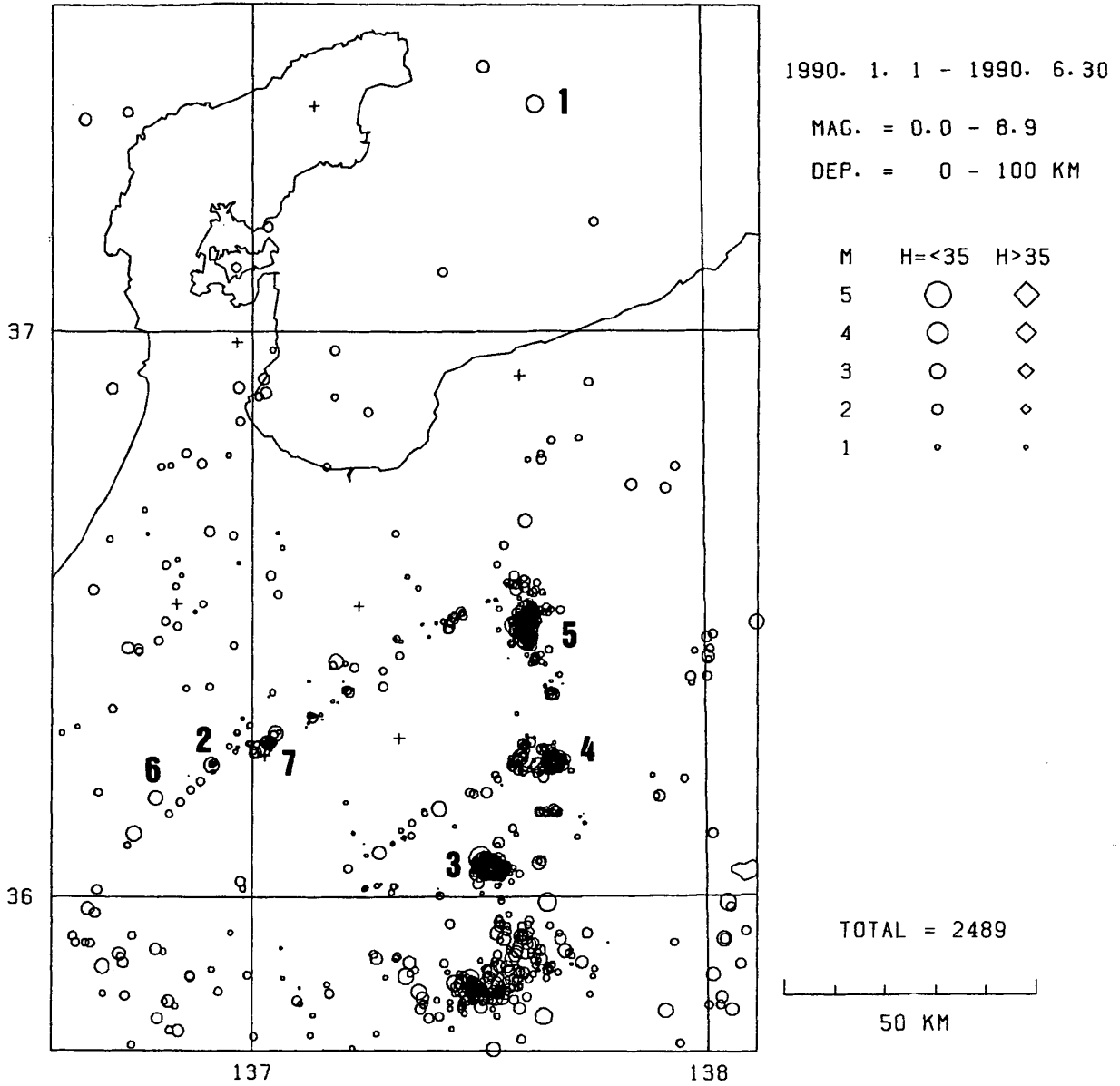
参 考 文 献

- 1) 京都大学防災研究所上宝地殻変動観測所，飛騨山脈下の最近の地震活動，連絡会報，44 (1990)，339-348.
- 2) 京都大学防災研究所地震予知研究センター，飛騨地方周辺の最近の地震活動，連絡会報，45 (1990)，395-403.
- 3) 京都大学理学部地震予知観測地域センター，滋賀県南部の地震 (1990年1月11日，M4.9)，連絡会報，44 (1990)，349-356.
- 4) 京都大学防災研究所鳥取微小地震観測所・微小地震研究部門，鳥取大学教養部地学教室，米子南方 (鳥取－島根県境) に発生した群発地震，連絡会報，43 (1990)，448-461.



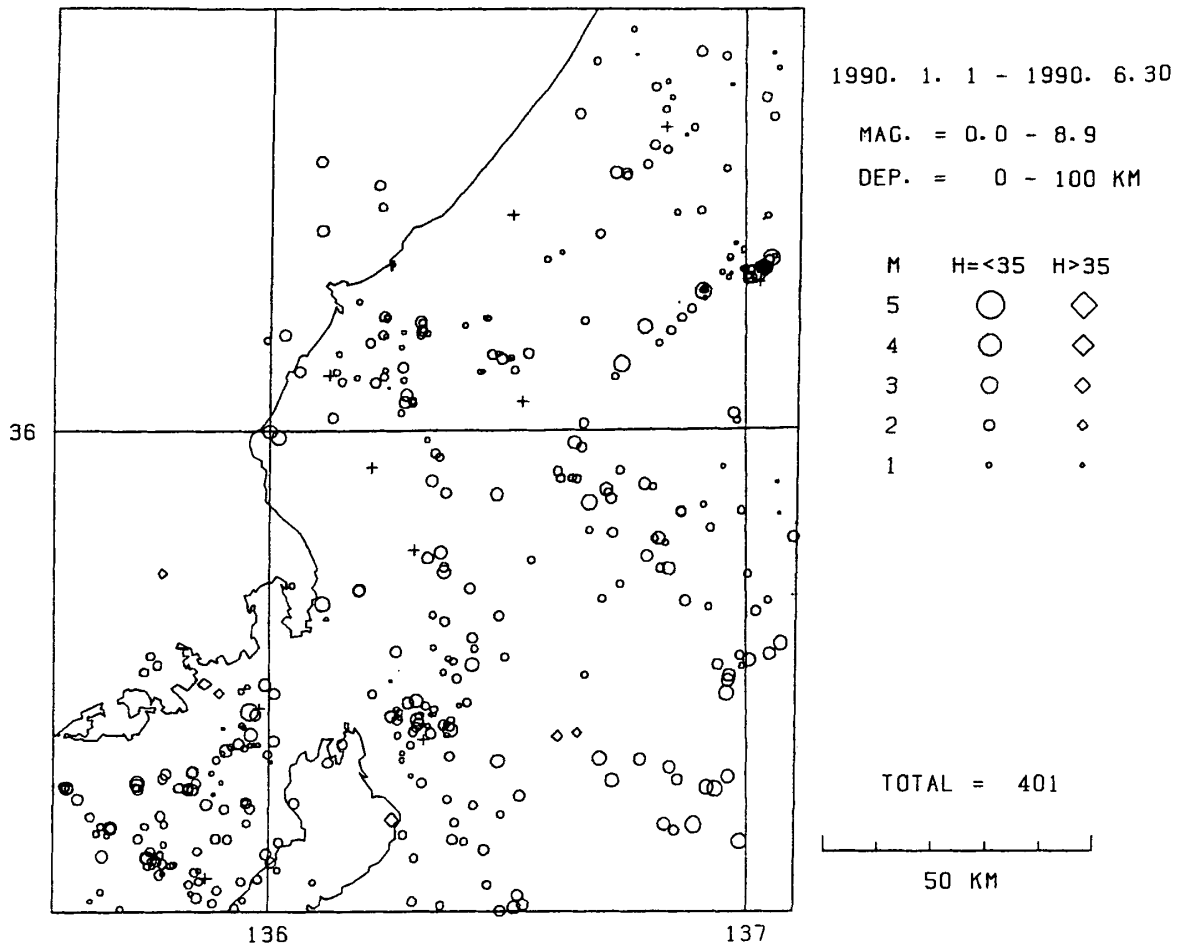
第1図 西南日本内陸部の地震活動, 1990年1月~6月

Fig. 1 Seismicity in the inner zone of Southwest Japan, January - June, 1990.



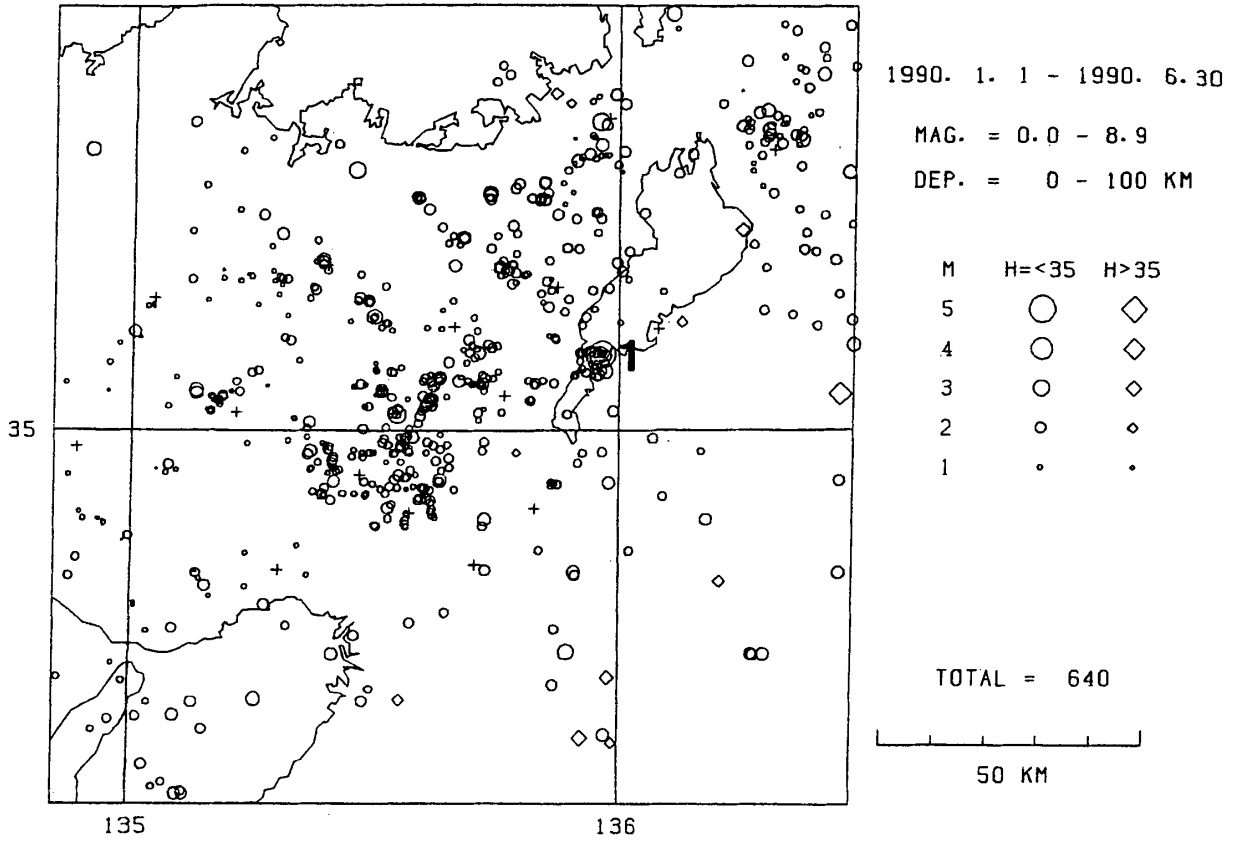
第2図 中部地方北西部の地震活動, (1)飛騨地方北部及び北陸地方北部, 1990年1月～6月

Fig. 2 Seismicity in the northwestern Chubu region, (1) northern Hida and northern Hokuriku regions, during the period January - June, 1990.



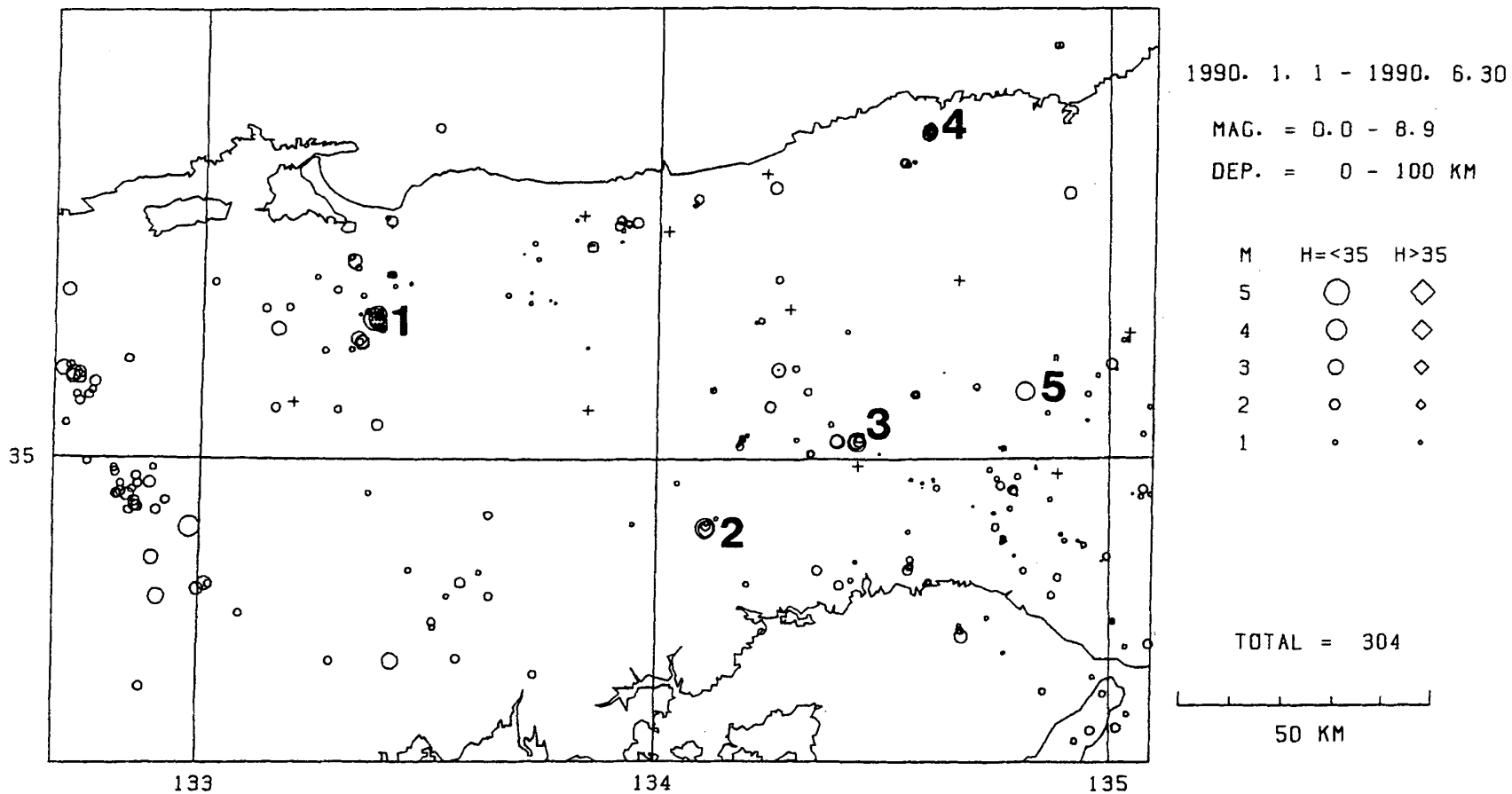
第3図 中部地方北西部の地震活動, (2)北陸地方南部, 1990年1月~6月.

Fig. 3 Seismicity in the northwestern Chubu region, (2) southern Hokuriku region, during the period January - June, 1990.



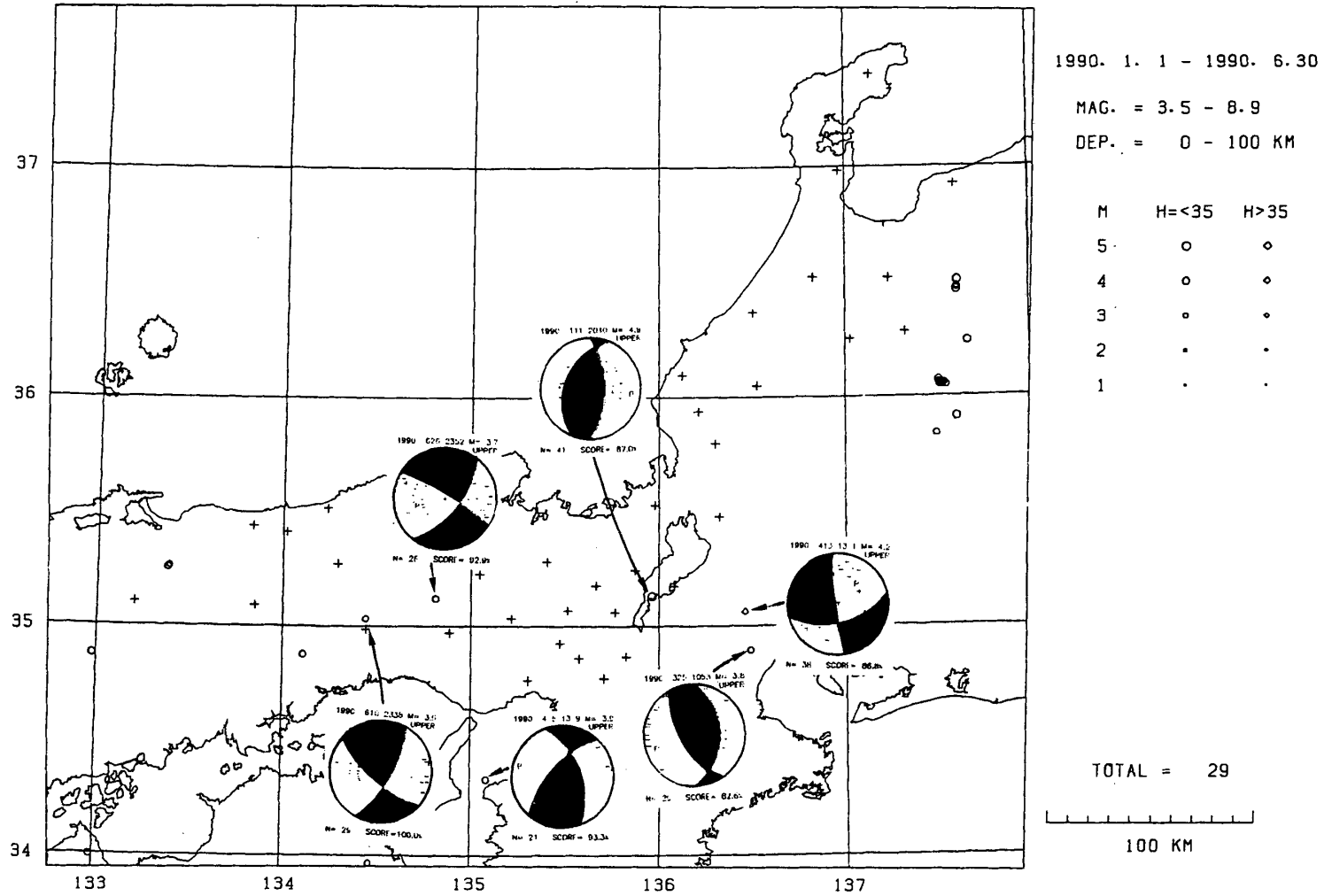
第4図 近畿地方中・北部の地震活動，1990年1月～6月

Fig. 4 Seismicity in the central and northern Kinki regions, during the period January - June, 1990.



第5図 中国地方東部の地震活動，1990年1月～6月

Fig. 5 Seismicity in the eastern Chugoku region, during the period January - June, 1990.



第6図 主要な地震 (M≥3.5) のメカニズム

Fig. 6 Focal mechanism solutions of several moderate-size earthquakes in the inner zone of Southwest Japan.